

感染症等の対策に関する留意事項について

(一社)大分県サッカー協会3種委員会

【会場まで・会場より】

- リーグもしくは大会に参加するチームは、事前にチーム健康チェックシート（別紙）を作成し、会場到着後本部に必ず提出すること。
- 体調不良の選手に関してはチーム責任者が把握し、その選手の試合への参加を見合わせるとともに、自宅で休養するよう指導する。
※熱があれば会場には連れてこない等、チームで保護者に周知徹底し、チェックはチームで終わらせて会場入りをする。特に保護者が了承していない参加は認めない。
- 保護者の引率が望ましいが、チームバスで移動する場合、マスクを必ず着用し、会話を極力行わないこと（高速道路では窓を開けることができないことに注意する）。

【更衣】

- 選手の距離をあけて更衣を行う。
- できる限り短時間で終わらせ、選手間の近距離による会話を行わない（行う場合は対面を避け、マスクを着用する）。

【ベンチ】

- 密集を避けるため、ベンチの置く椅子を1.5m離し、対面しないよう配慮すること。
- 会場責任者は、熱中症予防のためテントの準備を行うこと。
※密集を避けるため、いつもより多くのテントが必要になることが考えられる。会場責任者が準備できない場合、事前に各チームにその旨を伝え、持参や協力等のお願いをする。
- テクニカルエリアはタッチラインから2m程度とし、テクニカルエリア内からピッチ内に指示を出す場合、スタッフはマスクをつけなくても良い。
- 試合前、ハーフタイム、試合後のベンチでのミーティングで指導者が指示を出す場合、マスクを着用すること。ただし、密集を避けるためにベンチ以外の場所を使用し、ミーティングを行うことも可能とするが、試合開始時刻を遅らせることのないように注意し、本部はその管理を行うこと。
- 同一日に複数試合がある場合、試合終了時に当該チームがベンチの消毒を行い、次チームに引き渡すこと。

【試合】

- 保護者等の観戦を認めるが、必ず本部と反対側からお互いの間隔をあけて観戦すること。さらに大声を上げての応援等は極力避けることをチームで周知徹底させること。また、クラブハウス等の使用は密を防ぐため極力行わないこと。
※感染状況に応じて、無観客にする場合もある。その際は、3種委員会から別途連絡を行う。
- 試合前、試合後に相手チーム、審判団との握手は実施しない。
※試合前の用具チェックは間隔をあけて整列し、チェックを受け入場する。その後、従来通り整列し（ただし間隔はあける）、主審の笛で前後の礼のみを行う。
※試合が終了したら、従来通り整列し（ただし間隔はあける）、主審の笛で前後の礼のみを行う。
- 試合前の円陣は行わない。
- ベンチ前での密集した写真撮影を行わない。
- ベンチではマスクを着用し、会話を控える。
- 倒れた選手に手を貸さない。外に出す場合は担架を使用する（本部が担当し、マスクをつけて運び、運び終わった後は手指の消毒を行うこと）。
- ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離についてしっかりと配慮する。
- 得点後にハイタッチや抱擁等、チームメイトが集まる行為を行わない。
- ピッチ内でも咳エチケットを守り、唾をはく等の行為を行わない。
- 口に含んだ水を吐かない。
- ボトルの共有を行わない。
※スクイズをピッチの周りに置く場合はマイボトルにする（チームでドリンクを冷やすためのドブ漬けはしないこと）
- 試合後、相手ベンチへの挨拶は行わない。密集を避けるため、ベンチの置く椅子を1.5m離し、対面しないよう配慮すること。
- 試合終了後、30分以内に会場を離れること。

【その他（マスクの着用について）】

- マスク（特に外気を取り込みにくいN95等のマスク）を着用して運動やスポーツを行う場合は、体温を下げていくと熱中症になりやすくなることから注意が必要である。また、息苦しさを感じたときはすぐにマスクを外すことや休憩を取る等、無理をしないこと。

(令和2年5月28日 スポーツ庁健康スポーツ課スポーツ安全係通達より)